

汽水・淡水産魚類

種名	トサシマドジョウ (<i>Cobitis</i> sp. BIWAE type D) (シマドジョウ2倍体性種 (<i>Cobitis</i> sp.))
指定をする理由	本種は本州及び四国に分布するが、四国内では、本県の新莊川から伊尾木川に至る県の中部から東部までに生息し、比較的分布域が狭い。また、当該種は、清流性が強く、自然度の高い河川の中流域及びその周辺の水路の砂れき礫底に生息するため、開発行為等による環境の悪化により、生息域及び生息数が激減している。
形態	体は円筒状で普通のドジョウに似るが、口ひげは3対6本しかない(ドジョウでは10本)。体の基調色が透明感のある灰白色で、体側や体背部、ひれに黒褐色の美しい斑紋がある。
生息分布状況	河川中流域や周辺水路の砂礫底に生息し、底生動物やデトライタスなどを食べる。産卵期は5～6月で、伏流水が湧く河床や水田などで集団で産卵する。高知集団は他の集団とは種のレベルで異り、祖先的形質をより濃く残しているとみられている。
種の存続を脅かす要因	開発等による生息環境の劣化と生息数の減少およびマニアによる採集圧。
保護に関する指針	本種の捕獲等については、県内全域において知事の許可を受けた場合以外は、当該種の捕獲等を禁止するものとする。
高知県レッドデータブック掲載状況	CR+EN(絶滅危惧Ⅰ類)
高知県希少野生動植物保護基本方針該当項目	・種の存続に支障をきたす程度の個体数の減少 ・生息地の環境が著しく悪化若しくは消滅しつつある種



写真:高橋 「高知県レッドデータブック(動物編)2002」より